

第 11 回研究施設等廃棄物連絡協議会 議事録（案）

1. 日時 平成 27 年 2 月 12 日（木）13：00～14：30

2. 場所 日本原子力研究開発機構 東京事務所 第 5 会議室

3. 出席者（敬称略）

（委員）柴田^{*1}、寺井^{*1}、菊池^{*2}、澁谷^{*2}、○野村^{*3}、長谷川^{*3}

（事務局）高橋^{*3}、山口^{*3}、真鍋^{*3}、坂本^{*3}、北嶋^{*3}、星野^{*3}

（*1 RI 協会、*2 RANDEC、*3 JAEA、○議長）

4. 議題

- （1）議長挨拶
- （2）前回（第 10 回）議事録確認 資料 11-1
- （3）機構の実施状況 資料 11-2
- （4）大学・民間等の研究施設等廃棄物の処理事業準備状況 資料 11-3
- （5）日本アイソトープ協会における廃棄体の作製について
- （6）廃棄体検討WGの実施状況 資料 11-4
- （7）その他

5. 配布資料

資料 11-1 前回（第 10 回）議事録（案）

資料 11-2 機構の実施状況

資料 11-3 大学・民間等の研究施設等廃棄物の処理事業準備状況

資料 11-4 廃棄体検討 WG での検討状況

（参考）研究施設等廃棄物連絡協議会委員

6. 議事概要

（1）議長挨拶

野村議長より近況を含め挨拶があった。また、RI 協会・柴田委員、RANDEC・菊池委員より各法人の近況を含め挨拶があった。

（2）前回議事録（案）

資料 11-1 に基づき、事務局より前回議事録（案）について説明し、委員の了承を得た。

(3) 機構の実施状況

資料 11-2 に基づき、事務局より機構の実施状況として、平成 26 年度に実施した埋設処分業務の内容について説明を行った。今後は三者で協力し最終廃棄体の作成やそれに向けた技術開発等の実務的な作業を進めることになった。

(4) 大学・民間等の研究施設等廃棄物の処理事業準備状況

資料 11-3 に基づき、RANDEC より大学・民間等の研究施設等廃棄物の処理事業準備状況について紹介した。

効率的な廃棄体化処理設備の検討とその標準化について協力して進めていくことが必要との意見があった。

(5) 日本アイソトープ協会における廃棄体の作製について

RI 協会より廃棄物の仮焼処理と仮焼残渣の溶融試験について紹介した。今後、放射能測定方法について機構と協力して検討を進めることになった。

放射能分析について、効率的かつ安価に行えるような体制をオールジャパン体制で作ることが必要であるとの意見があった。

(6) 廃棄体検討WGの実施状況

資料 11-3 に基づき、事務局より廃棄体検討 WG での検討状況、RI 協会が作製予定の溶融物固化体のトレンチ処分への適合について紹介した。

RI 協会が作製予定の溶融物固化体は、概念設計上では放射能濃度がトレンチ処分対象であることを前提に付加機能型トレンチに該当することを確認した。

(7) その他

今後、埋設事業の着実な進展と、施設の設置時に確実に埋設処分が可能となるよう、三者の役割を明確にするとともに、課題の整理・検討を計画的に進めるための検討を三者で協力して行うことを機構から提案し了承された。

次回の開催時期については、事務局より後日連絡することとした。

以上